

四天王寺和らぎ苑

和らぎ苑では、『宣言』の実践のために障がいを持つご利用者が安心して暮らせる和らぎ苑をご家族とともにつくることを目指して、『和らぎ苑の誓い』を定め、実践を積み重ねた。

結果、実現のために、次の具体的な7つのビジョンを策定した。

1、理念の継承。2、ご利用者中心の医療、療養介護。3、よいチームワーク。4、安全で安心な施設。5、知識、技術の向上、教育システムの確立。6、地域のための施設。7、経済的安定。

以上を今後の運営方針の基にしたいと考える。

～事業活動報告～

(1) 『宣言』の具体的実践と理念の伝承

各部署単位での朝礼のみならず、全体朝礼を定期開催し、宣言の浸透を図った。

宣言の具現化の成果として、実践報告会を開催した。

(2) 職員教育、人材育成、後継者の育成

各専門領域毎、あるいは全職員共通の技術習得の為内外研修計画を立案し参加した。

次世代の組織マネジメントリーダー候補者を指名し、養成を図った。

(3) 利用者中心の施設

多職種からなる利用者個々の事例検討会を合同カンファレンスとして実施し定着させた。

人工呼吸器等医療ニーズに対応するべく、人員体制並びに設備等の環境整備に取り組んだ。

(4) 安全管理、危機管理

医療安全、感染症対策等、年間1,000件を超えるインシデントアクシデントレポートをもとに原因分析から再発防止策を多職種からなるカンファレンスで立案し、実践を行った。

(5) 各サービス提供の稼働確保、向上

概ね前年対比で稼働を伸ばしたが、唯一短期入所のみ前年を下回った。重症児者の利用拡大の為、立てた人的体制計画が進まなかったのが要因であった。引続き重点課題として取組む。

～改善活動～

(1) 職員の働きやすい環境づくりの為、安全衛生委員会及び臨床心理士の発案から、休憩スペースの改善や腰痛対策の取り組みを実施した。

(2) 高度で温かな医療の提供をもとに、医療収入の増収を目標とし、結果前年度対比850万円の増収とした。

(3) 重点課題としていた在宅支援強化は、生活介護や児童発達支援事業において人工呼吸器装着利用者の受入を実現した。

(4) 各種業務委託等の契約を一律見直し、単年度で500万円のコストダウンを実現した。

(5) 計画通り防災・災害に向けて、アクションカードを作成、実践訓練の準備を進めた。